

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2019年6月26日

【事業年度】 第65期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

【会社名】 佐藤食品工業株式会社

【英訳名】 SATO FOODS INDUSTRIES CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 清水 邦雄

【本店の所在の場所】 愛知県小牧市堀の内四丁目154番地

【電話番号】 (0568)77 7316(代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 那須 智

【最寄りの連絡場所】 愛知県小牧市堀の内四丁目154番地

【電話番号】 (0568)77 7316(代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 那須 智

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (千円)	5,740,199	5,885,923	6,152,000	6,640,985	6,850,843
経常利益 (千円)	884,649	833,079	1,151,436	1,248,760	1,123,838
当期純利益 (千円)	190,315	180,605	810,783	954,861	727,271
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	3,672,275	3,672,275	3,672,275	3,672,275	3,672,275
発行済株式総数 (株)	9,326,460	9,326,460	9,326,460	9,326,460	9,326,460
純資産額 (千円)	14,117,750	14,079,709	14,822,022	15,557,851	16,072,292
総資産額 (千円)	16,023,546	16,033,900	16,486,108	17,885,293	18,051,647
1株当たり純資産額 (円)	2,259.02	2,252.09	2,370.09	2,486.61	2,567.70
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	30.00 (15)	30.00 (15)	30.00 (15)	30.00 (15)	30.00 (15)
1株当たり当期純利益 (円)	30.46	28.91	129.79	152.86	116.43
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	30.42	28.84	129.24	152.03	115.68
自己資本比率 (%)	88.1	87.7	89.8	86.8	88.9
自己資本利益率 (%)	1.4	1.3	5.6	6.3	4.6
株価収益率 (倍)	32.8	30.3	11.8	11.1	12.6
配当性向 (%)	98.5	103.8	23.1	19.6	25.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	246,965	690,755	761,938	1,323,196	977,679
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	269,032	499,443	199,695	120,588	113,404
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	87,933	97,719	188,114	127,682	257,354
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	4,778,937	4,872,529	5,246,658	6,321,583	6,928,503
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (名)	163 (36)	163 (32)	169 (33)	169 (32)	174 (28)
株主総利回り (%) (比較指標：配当込みTOPIX) (%)	92.0 (130.7)	83.7 (116.6)	144.6 (133.7)	162.5 (154.9)	144.6 (147.1)
最高株価 (円)	1,330	1,075	1,580	1,779	2,539
最低株価 (円)	926	817	851	1,301	1,230

- (注) 1. 当社は、連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
4. 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。
5. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第65期の期首から適用しており、第64期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

## 2 【沿革】

- 1954年10月 愛知県名古屋市に有限会社佐藤食品工業所を設立、白醤油の製造販売を開始。
- 1962年 5月 佐藤食品工業株式会社に組織変更。
- 1964年 3月 本社工場にスプレードライヤー第1号機を設置(1982年 8月廃止)。調味料粉末化の研究を開始。
- 1965年 5月 粉末天然調味料の製造販売を開始。
- 1966年 4月 三重県桑名市に三重工場を開設し、液体天然調味料の製造販売を開始。
- 1966年11月 世界初のアルコール粉末化を各日刊紙に発表。
- 1967年 5月 愛知県小牧市粉末専門工場として小牧工場を開設。スプレードライヤー第2号機を設置(1988年 9月廃止)。高含度アルコール粉末「アルコック」各種の製造販売を開始。
- 1969年 3月 三重工場を廃止し、小牧工場に統合。
- 1970年 8月 本社を愛知県小牧市(小牧工場)へ移転。
- 1972年11月 スプレードライヤー第3号機を設置(2003年 5月廃止)。
- 1973年 2月 名古屋工場を廃止し、本社(小牧工場)に統合。
- 1977年 9月 スプレードライヤー第4号機を設置。
- 1980年 4月 茶エキスの製造販売を開始。
- 1981年 5月 酒税法が改正され、含アルコール粉末は「粉末酒」として認可され、「粉末酒」酒造免許第1号を受ける。
- 1982年 6月 ドリンク用粉末酒「アルコック・ライトカクテル」の製造販売を開始。スプレードライヤー第5号機を設置。
- 1986年 6月 茶エキス抽出設備の増設。
- 1988年 2月 スプレードライヤー第6・7号機を設置。
- 1990年 7月 本社新社屋完成。
- 1991年 4月 社団法人日本証券業協会に株式を店頭登録。
- 1994年 3月 天然調味料抽出設備増設。
- 1999年10月 第二工場完成(茶エキス専門工場)。
- 2002年 2月 ISO9001認証取得。
- 2004年12月 株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場。
- 2006年 5月 第三工場完成(包装工程・物流倉庫設備)。
- 2008年 3月 ISO14001認証取得。
- 2009年 3月 第三工場第二製造棟完成(第三工場エキス棟より名称変更)。
- 2010年 4月 ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に上場。
- 2010年10月 大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。
- 2011年 1月 第三工場第二製造棟乾燥ライン稼働。
- 2012年 3月 FSSC22000認証取得。
- 2013年 7月 東京証券取引所と大阪証券取引所の現物市場の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。

### 3 【事業の内容】

当社は、茶エキス・天然調味料・植物エキス及び粉末酒の製造販売を行っております。なお、当社は食品加工事業に関する単一の事業分野において単一の事業活動を営んでいるため、セグメント情報は記載しておりません。

また当社は、子会社及び関連会社を一切有しておりません。事業系統図は以下のとおりとなります。



### 4 【関係会社の状況】

当社は、子会社及び関連会社を一切有しておりません。

### 5 【従業員の状況】

#### (1) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
174 (28)	36.8	14.9	5,853

事業部門の名称	従業員数(名)
製造部門	125 (22)
研究開発部門	20 ( )
管理・販売部門	29 (6)
合計	174 (28)

- (注) 1. 従業員は、就業人員であります。  
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
 3. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員(パートタイマー及び嘱託)の年間平均雇用人員であります。  
 4. 最近一年間において人員に著しい増減はありません。  
 5. 当社は、単一セグメントであるため、事業部門別の従業員数を記載しております。

#### (2) 労働組合の状況

現在、労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社の経営理念は、「1.新しい天然食品の創造に向かって、独創的な技術開発を継続する。2.新しい天然食品加工分野を創造し、人類へ貢献する。」であります。

この経営理念のもと、技術立社を基本とする高度な開発技術及び生産技術を確立し、顧客満足度及び付加価値の高い製品を市場に提供する事で社会に貢献し、社会との共生を図ってまいります。

#### (2) 目標とする経営指標

当社は、每期、安定的な利益を継続的に確保すると同時に、株主利益の重視と経営の効率化の視点からROE（自己資本当期純利益率）並びに、ROA（総資産経常利益率）を重要な経営指標としております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社は、差別化された製品開発と用途開発に注力し、業績を安定的に成長させることを目指してまいります。

また、「天然風味の粉末化」の基礎となる独自の開発技術や装置技術を製造技術と融合させ、茶エキス、天然粉末和風だし、植物エキス、粉末酒やその技術を応用した新製品の開発など製品の高付加価値化に経営資源を集中してまいります。

#### (4) 会社の対処すべき課題

当社が対処すべき当面の課題といたしましては、特に下記の3点を重要課題として取り組んでおります。これらの課題を継続して確実にクリアすることにより、経営基盤の強化・安定を図り、企業価値の向上に努めてまいります。

##### 安全・安心な製品の提供

食に携わる企業として、より高いレベルで顧客・消費者の皆様に安全・安心な製品を提供するため、食品安全システム認証（FSSC22000）を導入するなど品質保証体制のさらなる強化に努め、品質保証プロセスにおいて、統合的なITシステムを用いた業務改善に取り組んでまいります。

また、原材料トレースや残留農薬等のポジティブリスト制度対応など、安全性の確保に必要な品質管理体制の維持・強化にも継続的に取り組んでまいります。

##### 生産性の向上及び合理化

世界的な食料需要の増加や天候不順による不漁・不作など原材料調達の不確実性が高まる中、原材料の安定調達やコスト上昇に対処すべく、仕入ルートの拡大や製法改良などにより、利益を生み出しやすい生産体制作りに取り組んでまいります。また、人手不足による労働力不足や人件費増加に対処すべく、製造設備を更新し、自動化・省人化を推進してまいります。

##### 高付加価値製品の開発

開発技術、製造技術及び装置技術を融合することで、事業活動全体で高い付加価値を生み出し続けることができる体制を構築してまいります。さらに、顧客ニーズを的確に把握し、そのニーズを製品として結実させていく、組織的かつ提案型の営業活動を行ってまいります。

## 2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社が判断したものであります。

### (1) 食品の安全性について

当社では、各原材料メーカーから、「食品衛生法」、「農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律（通称、「JAS法）」、「不当景品類及び不当表示防止法(通称、「景品表示法）」等の関連諸法規に違反しないことを保証する書面を受領する等、品質管理については万全な体制で臨んでおりますが、今後も当社固有の品質問題のみならず、社会全般にわたる一般的な品質問題等が発生した場合、当社の業績に影響を与える可能性があります。

### (2) 法的規制について

当社は、茶エキス・天然調味料・植物エキス及び粉末酒の製造販売を主力業務としているため、「食品衛生法」、「農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律（通称、「JAS法）」、「製造物責任法」、「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(通称、「容器包装リサイクル法）」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（通称、「廃棄物処理法）」及び「酒税法」による規制を受けております。食品衛生法におきましては、食品・食品添加物の規格基準(表示・使用基準等)が定められており、また、容器包装リサイクル法におきましては、再商品化の義務履行が定められております。さらに、酒税法におきましては、粉末酒の製造、販売の法的規制が定められております。

### (3) 原材料の価格変動について

当社の使用する主要な原材料（鰹節・昆布・椎茸等）、デキストリンは、国際的な需給動向等によりその価格が変動する可能性があります。また、原油価格の高騰は、包装材料の価格や製造コスト、運送コスト等に影響を与える要因となります。これらのコストが上昇した際、生産効率の改善や販売価格への転嫁等による方法で吸収できないことも想定され、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当事業年度の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前事業年度との比較・分析を行っております。

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

##### 財政状態及び経営成績の状況

当事業年度における我が国経済は、各種の経済・金融政策により、企業収益や雇用環境が緩やかな回復基調で推移いたしましたが、米中の貿易摩擦問題や英国のEU離脱問題等の懸念材料も多く、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当食品業界につきましては、製品の付加価値化が進む一方で消費者の節約志向が継続しており、業界を取り巻く経営環境は厳しい状況となっております。

このような状況のもと、当社は多様化する消費者ニーズに対応すべく「茶エキス」、「天然調味料」、「植物エキス」の製品開発ならびに用途開発に注力してまいりました。

##### a. 財政状態

当事業年度末における資産合計は 18,051百万円となり、前事業年度末に比べ 166百万円増加しました。

当事業年度末における負債合計は 1,979百万円となり、前事業年度末に比べ 348百万円減少しました。

当事業年度末における純資産合計は 16,072百万円となり、前事業年度に比べ 514百万円増加しました。

##### b. 経営成績

当事業年度における売上高は、茶エキスにつきましては、ほうじ茶エキス等が飲用用途に加えて、製菓用途の採用が拡大するなどして増加したものの、緑茶エキス等が減少したため、売上高は 3,475百万円（対前年同期比 1.1%減）となりました。

粉末天然調味料につきましては、粉末椎茸等が減少したものの、粉末鰹節並びに前事業年度に新発売した呈味力真鯛エキス等の粉末魚介等が増加したため、売上高は 1,777百万円（同 4.2%増）となりました。

液体天然調味料につきましては、椎茸エキス等が減少したものの、鰹節エキス・昆布エキス等が増加したため、売上高は 714百万円（同 0.8%増）となりました。

植物エキスにつきましては、野菜エキスが減少したものの、前事業年度から引き続き、洋和菓子・デザート類市場において果実エキスの需要が強含んで推移した結果、果実エキス等が増加したため、売上高は 722百万円（同 23.7%増）となりました。

粉末酒につきましては、製菓用途の採用が拡大しており、清酒タイプ等が減少したものの、ラムタイプ等が増加したため、売上高は 152百万円（同 28.0%増）となりました。

以上の結果、当事業年度における売上高は 6,850百万円（同 3.2%増）となりました。

損益面につきましては、人件費や燃料コストの上昇により営業利益は 1,043百万円（同 10.5%減）、受取配当金 58百万円（同 4.3%減）を計上したため、経常利益は 1,123百万円（同 10.0%減）となりました。また、投資有価証券評価損 159百万円を計上し、当期純利益は 727百万円（同 23.8%減）となりました。

なお、当社は食品加工事業に関する単一の事業分野において単一の事業活動を営んでいるため、セグメント情報は記載しておりません。

キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ 606百万円増加し、6,928百万円となりました。

なお、当事業年度におけるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度における営業活動による資金の増加は、977百万円(前事業年度は 1,323百万円の増加)となりました。これは主に、法人税等の支払額 467百万円、税引前当期純利益 1,062百万円、減価償却費 432百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度における投資活動による資金の減少は、113百万円(前事業年度は 120百万円の減少)となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入 190百万円、有形固定資産の取得による支出 273百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度における財務活動による資金の減少は、257百万円(前事業年度は 127百万円の減少)となりました。これは主に、配当金の支払額 187百万円、短期借入金の返済による支出 70百万円によるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当事業年度における生産実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目別	生産高(千円)	前年同期比(%)
茶エキス	3,394,093	7.0
粉末天然調味料	1,745,616	2.5
液体天然調味料	725,952	2.5
植物エキス	702,309	22.6
粉末酒	153,385	29.7
計	6,721,356	0.5

(注) 上記金額は、販売価格によっており、消費税等は含まれておりません。

b. 受注状況

当社は、見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

c. 販売実績

当事業年度における販売実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目別	販売高(千円)	前年同期比(%)
茶エキス	3,475,136	1.1
粉末天然調味料	1,777,908	4.2
液体天然調味料	714,973	0.8
植物エキス	722,760	23.7
粉末酒	152,925	28.0
その他	7,138	2.3
計	6,850,843	3.2

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前事業年度		当事業年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
(株)伊藤園	1,277,924	19.2	1,159,082	16.9
MCフードスペシャリティーズ(株)	749,895	11.3	707,777	10.3

MCフードスペシャリティーズ(株)は、2019年4月1日付けで三菱商事ライフサイエンス(株)に商号を変更しております。



## (2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであります。

### 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。

この財務諸表の作成にあたっては、過去の実績や状況に応じ合理的だと考えられる様々な要因に基づき、見積り及び判断を行っておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

なお、詳細につきましては「第5 経理の状況 1 財務諸表等(1)財務諸表 注記事項(重要な会計方針)」に記載しております。

### 当事業年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当事業年度末における資産合計は18,051百万円となり、前事業年度末に比べ166百万円増加しました。

流動資産については9,928百万円となり、前事業年度末に比べ587百万円増加しました。主に、現金及び預金が606百万円増加したことによります。

固定資産については8,123百万円となり、前事業年度末に比べ421百万円減少しました。主に、投資有価証券、有形固定資産がそれぞれ312百万円、127百万円減少したことによります。

負債合計は1,979百万円となり、前事業年度末に比べ348百万円減少しました。

流動負債については1,785百万円となり、前事業年度末に比べ329百万円減少しました。主に、仕入債務、未払法人税等がそれぞれ203百万円、143百万円減少したことによります。

固定負債については193百万円となり、前事業年度に比べ18百万円減少しました。主に、繰延税金負債が18百万円減少したことによります。

純資産合計は16,072百万円となり、前事業年度に比べ514百万円増加しました。主に、配当金の支出により187百万円、その他有価証券評価差額金が33百万円、それぞれ減少したものの、当期純利益727百万円を計上したことによります。

この結果、1株当たり純資産は、前事業年度末の2,486円61銭から2,567円70銭となり81円09銭増加しております。

### (売上高)

当社は、創業以来取り組んでまいりました「天然風味の粉末化」において、新たな領域を創造すべく、「茶エキス」、「植物エキス」などの新製品開発を進めてまいりました。この結果、当事業年度の売上高は、6,850百万円(対前年同期比209百万円増)となりました。

### (売上原価)

当事業年度は、燃料費の増加等により、売上高に対する原価率は前事業年度に比べて2.2ポイント上昇して、71.8%となりました。

### (売上総利益)

以上の結果、売上総利益は前事業年度に比べて88百万円減の1,930百万円となりました。

### (販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費は、前事業年度に比べ33百万円増の886百万円となりました。

主に、役員報酬の増加によるものであります。販売費及び一般管理費の総額の売上高に対する負担率は12.9%となり、前事業年度から0.1ポイント上昇しました。

なお、販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費は、前事業年度に比べて8百万円増の194百万円となり、売上高に対する負担率は2.8%で、前事業年度から変動はありませんでした。

### (営業利益)

売上総利益から販売費及び一般管理費を控除した営業利益は、前事業年度に比べ10.5%減の1,043百万円となり、売上高営業利益率は前事業年度から2.3ポイント低下して、15.2%となりました。

(営業外収益・営業外費用)

当事業年度は、営業外収益から営業外費用を差し引いた純額は 80百万円となり前事業年度と比べ 2百万円の減少となりました。

これは主に、貯蔵品処分損が増加したことによります。

(経常利益)

以上の結果、営業利益に営業外収益・営業外費用を加減算した経常利益は、前事業年度に比べ 10.0%減の 1,123百万円となり、売上高経常利益率は前事業年度から 2.4ポイント減少して、16.4%となりました。

(特別利益・特別損失)

特別利益は、103百万円となり、前事業年度に比べ 5百万円増加しております。これは主に、当事業年度は受取保険金 15百万円を計上したことによります。

特別損失は 164百万円となり、前事業年度に比べ 160百万円増加しております。これは主に、当事業年度は投資有価証券評価損 159百万円を計上したことによります。

(税引前当期純利益)

以上の結果、経常利益から特別利益・特別損失を加減算した税引前当期純利益は、1,062百万円となりました。

(法人税、住民税及び事業税)

法人税等の税負担額は、法人税、住民税及び事業税が減少したため、334百万円となりました。

(当期純利益)

以上の結果、当期純利益は 727百万円となりました。

なお、1株当たり当期純利益は 116円43銭、ROE(自己資本当期純利益率)は 4.6%、ROA(総資産経常利益率)は 6.3%となりました。

資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社の資本の財源及び資金の流動性につきましては、次のとおりであります。

当社の運転資金需要のうち主なものは、商品の仕入れほか、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資等によるものであります。

当社は、事業に必要な資金の流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。

運転資金につきましては、自己資金又は必要に応じて金融機関からの借入の実施等により資金調達をしております。

キャッシュ・フローの状況につきましては、「(1)経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

#### 4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 5 【研究開発活動】

当社の研究開発活動は技術部にて行われており、部員数は20名であります。

研究開発活動の主な内容は、茶エキス、天然調味料、植物エキス及び粉末酒の分野における、新製品開発であります。当社経営理念に則り、国内外の食に対するニーズを把握し、新しい天然加工食品分野の創造を目指し、研究開発活動に注力しております。

なお、当社は食品加工事業に関する単一の事業分野において単一の事業活動を営んでいるため、セグメント情報は記載しておりません。

(1) 各分野における具体的取組事項は次のとおりであります。

茶エキス

高品質化の追求とともに、様々な用途でご使用いただけるようコストパフォーマンスに優れた新製品開発に取り組んでおります。

天然調味料

国内市場が成熟し多様化が進む中、当社独自の技術を応用した高品質で差別化された新製品開発に取り組んでおります。

植物エキス

フレッシュな香りを有する野菜・果実エキスや健康食品等に使用する機能性食品の製品化に取り組んでおります。

粉末酒

新製品開発を進めるとともに、用途開発にも取り組んでおります。

(2) 当事業年度の成果は次のとおりであります。

茶エキス

新製品を13件開発いたしました。

天然調味料

新製品を4件開発いたしました。

植物エキス

製菓、飲料、健康食品等の用途にて、9件の新製品を開発いたしました。

粉末酒

新製品を2件開発いたしました。

なお、当事業年度の研究開発費は194百万円となりました。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当社は食品加工事業に関する単一の事業分野において単一の事業活動を営んでいるため、セグメント情報は記載していません。当事業年度の設備投資は、総額で304百万円となり、その主なものは、本社工場抽出設備改修工事及びガスクロマトグラフ質量分析装置導入であります。

#### 2 【主要な設備の状況】

2019年3月31日現在

事業所名 (所在地)	事業部門 の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物 及び構築物	機械装置 及び 車両運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社工場 (愛知県小牧市)	製造・ 研究	生産設備及び 試作・開発 研究設備	187,498	318,319	47,344 (4,105.42) 〔2,035.00〕	13,791	566,953	96
第二工場 (愛知県小牧市)	製造	茶エキス 生産設備	332,263	302,608	653,694 (7,397.75) 〔 〕	1,537	1,290,103	30
第三工場 (愛知県春日井市)	製造	包装・乾燥設 備・自動倉庫	1,204,875	445,268	1,757,547 (52,577.86) 〔 〕	5,134	3,412,826	19
本社 (愛知県小牧市)	管理・ 販売	全社管理・ 販売業務施設	50,604		99,717 (2,527.50) 〔1,018.00〕	24,920	175,243	29
合計			1,775,240	1,066,196	2,558,304 (66,608.53) 〔3,053.00〕	45,384	5,445,126	174

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。  
2. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であります。  
3. 上記中〔 〕内は賃借中の土地を外数で示しており、合計には含んでおりません。

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

##### (1) 重要な設備の新設等

事業所名 (所在地)	事業部門 の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
			総額 (千円)	既支払額 (千円)				
第三工場 (愛知県春日井市)	製造	第三期工事 (製造設備)	1,699,000	84,361	自己資金	2010年12月	未定	50%増加

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。  
2. 2011年4月28日付けで公表しております「固定資産(第三工場第三期工事)の取得の延期のお知らせ」とあり、第三期工事の計画を再検討しております。なお、工事再開時期は未定となっております。

##### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	27,000,000
計	27,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,326,460	9,326,460	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であり ます。
計	9,326,460	9,326,460		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

ストックオプション制度の内容は「第5 経理の状況 1 財務諸表等 注記事項」の(ストック・オプション等関係)に記載しております。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2007年8月30日(注)	1,900	9,326	1,839	3,672	1,837	3,932

(注) 2007年8月14日開催の取締役会決議に基づく第三者割当増資による増加であります。

割当先 (株)T Z C S (旧(株)T・ZONEキャピタル(2007年10月10日付けで商号変更))

(株)T Z C S (旧(株)T・ZONEキャピタル)は、2008年3月26日に(株)S F C Gに吸収合併されております。なお、(株)S F C Gは、2009年2月23日に民事再生手続開始の申立てを行っていましたが、2009年4月21日に破産手続開始決定がされております。

発行価格 1株につき 1,935円

資本組入額 1株につき 968円

## (5)【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		10	5	32	11	1	842	901	
所有株式数 (単元)		11,418	190	16,320	201	20	65,018	93,167	9,760
所有株式数 の割合(%)		12.25	0.20	17.52	0.22	0.02	69.79	100.00	

(注) 自己株式 3,079,942株は、「個人その他」に 30,799単元、「単元未満株式の状況」に 42株含まれております。

## (6)【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有 株式数の割合(%)
佐藤仁一	愛知県岩倉市	2,038	32.63
横浜冷凍株式会社	神奈川県横浜市西区 みなとみらい4丁目6番2号	579	9.27
ブルドックソース株式会社	東京都中央区日本橋兜町11番5号	390	6.24
新興プランテック株式会社	神奈川県横浜市磯子区 新磯子町27番地5	295	4.73
株式会社名古屋銀行	愛知県名古屋市中区錦 3丁目19番17号	271	4.34
株式会社愛知銀行	愛知県名古屋市中区栄 3丁目14番12号	267	4.28
湯原善衛	愛知県瀬戸市	252	4.03
株式会社光通信	東京都豊島区西池袋1丁目4番地10	217	3.48
佐藤京子	愛知県岩倉市	203	3.26
株式会社十六銀行	岐阜県岐阜市神田町8丁目26番地	200	3.20
計		4,715	75.49

(注) 上記の他、当社所有の自己株式 3,079千株があります。

## (7)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,079,900		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,236,800	62,368	同上
単元未満株式	普通株式 9,760		
発行済株式総数	9,326,460		
総株主の議決権		62,368	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式 42株が含まれております。

## 【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 佐藤食品工業株式会社	愛知県小牧市堀の内 四丁目154番地	3,079,900		3,079,900	33.02
計		3,079,900		3,079,900	33.02

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類 等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	12	25
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(単元未満株式の買増請求による売渡)	14	25		
保有自己株式数	3,079,942		3,079,942	

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増請求による売渡による株式数は含めておりません。

## 3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する積極的な利益還元を経営の最重要政策のひとつとして位置づけており、業績の見通し、財政状態、配当性向及び純資産配当率等を総合的に勘案して配当を実施することを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としており、配当決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

この方針に基づき、当事業年度の剰余金の配当金につきましては、中間配当金 15円と期末配当金 15円を合わせて、30円としております。

この結果、当事業年度の純資産配当率は1.2%、株価純資産倍率0.6倍となりました。

内部留保につきましては、生産設備の改善・増強、新製品・新技術の開発や第三工場の抽出設備の建設・稼働に対して有効投資を行い、健全な経営の継続と安定的な業績の拡大を図る所存であります。

なお、当社は、取締役会の決議により、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2018年10月26日 取締役会決議	93,697	15.00
2019年6月25日 定時株主総会決議	93,697	15.00



#### 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

##### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、経営環境の変化が急激に進展する中で、強力で適正な経営の意思決定機能と迅速な業務執行体制を築くとともに、それに応じた監査・監督機能を確保し、積極的な情報開示を実施することにより、経営の透明性を高めていくことを経営上の重要な課題としております。

また、企業価値向上のため、社会的存在意義を意識し、常に探求心をもって、確固たる技術力と品質の向上に努め、顧客の信頼を得ることを基本に企業活動を行っております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

##### a. 企業統治の体制の概要

当社における企業統治の体制は、会社法に基づく機関として、株主総会及び取締役のほか、取締役会、監査役、監査役会、会計監査人を設置しており、これらの機関のほかに内部監査室、リスクマネジメント・コンプライアンス委員会を設置しております。

具体的な会社の機関の概要は、以下のとおりであります。

##### <取締役会>

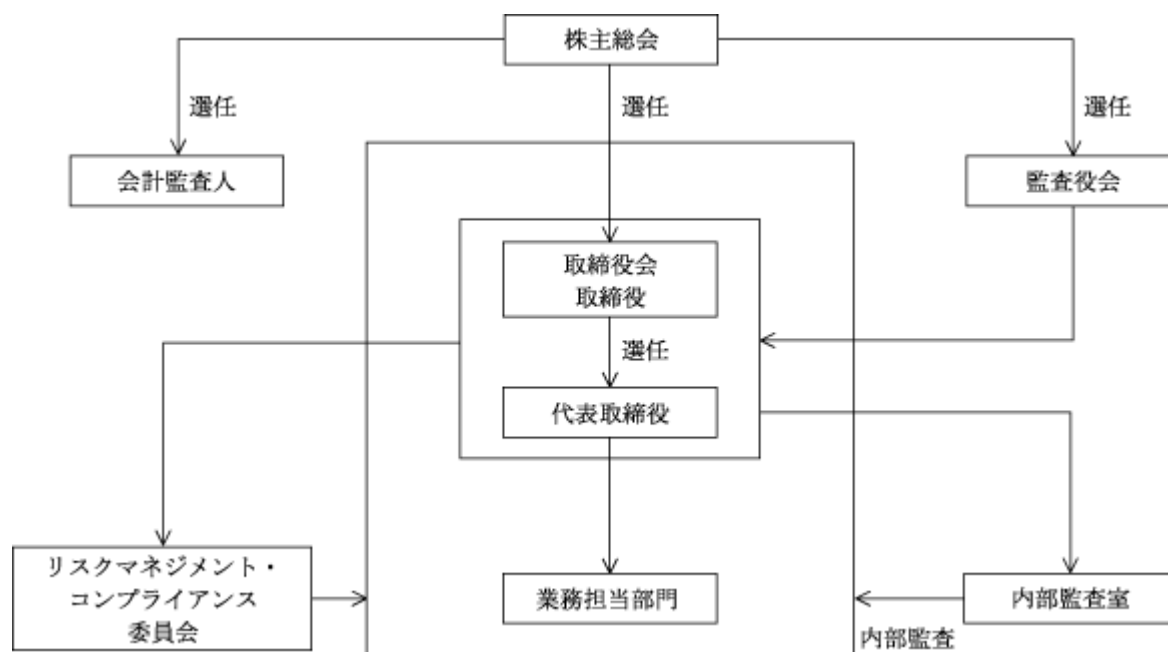
取締役会は、経営の基本方針、法令で定められた事項及び経営に関する重要事項の意思決定・監督機関であり、取締役により定期的に行われております。また、必要に応じ、臨時取締役会を開催しております。

##### <監査役会>

監査役会につきましても、定期的に行われております。公正、客観的な立場から監査を行うことを目的に、監査役3名のうち2名は社外監査役としており、それぞれの専門的知識や経験に基づき取締役会で適宜意見を表明し、監督・監査機能を確保しております。なお、社外監査役串田正克は、弁護士の資格を有しております。

##### <内部監査室>

内部監査室（担当3名）は、内部監査計画に基づき、取締役及び社員の職務執行における、法令、定款及び社内規程の遵守状況についての監査を行っております。



## ｂ．企業統治の体制を採用する理由

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本は、「経営および株主に対する透明性の確保」にあると考えております。そのために、豊富な経営管理の経験や高い専門知識を持った社外取締役や社外監査役による適正な監督及び監査を行い、独立的な立場で取締役会に出席することで、現状では十分な経営監督及び監査機能を備えているものと考えております。また、効率的な業務執行が可能となるよう執行役員制度を導入しており迅速な意思決定を行うとともに、監査役会、内部監査室、会計監査人等の活動によって適正な監視体制が十分機能していると判断しております。

## 企業統治に関するその他の事項

### ａ．内部統制システムの整備の状況

当社では、業務全般を管理するための諸規程が整備されており、各業務担当部門が、その諸規程によって定められた責任と権限のもとで業務を遂行しております。諸規程は、取締役会等により、都度見直しが行われております。

### ｂ．リスク管理体制の整備の状況

当社におけるリスク管理体制は、通常の職制を通じたリスク管理体制と経営者の認定を受けた内部監査員が当該部門の持つリスクと業務内容を監視し、その問題点への対応を行っており、コンプライアンスやリスク管理の徹底に努めております。

### ｃ．責任限定契約の内容の概況

当社は、会社法第427条第1項に基づき、社外取締役及び社外監査役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任について、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、社外取締役及び社外監査役は法令の定める限度額の範囲内でその責任を負担する旨の契約を締結しております。

## 取締役会で決議できる株主総会決議事項

### ａ．中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として、中間配当をすることができる」旨を定款に定めております。

### ｂ．自己の株式の取得

当社は、自己株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

## 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取り組みを行っておりますが、特別決議の定足数確保をより確実なものとするを目的として、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

## 取締役の定数

当社の取締役は7名以内とする旨定款に定めております。

## 取締役の選任の決議案件

当社の取締役選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席しその議決権の過半数をもって行う旨、及び選任決議は累積投票によらない旨を定款で定めております。

#### 取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項に基づき、取締役会の決議によって、取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の会社法第423条第1項の損害賠償責任について、法令に定める限度額の範囲内でその責任を免除できる旨を定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性9名 女性 名 ( 役員のうち女性の比率 % )

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長	清水 邦雄	1948年 9月28日生	1971年 4月 株式会社三興製作所(現 新興ブランテック株式会社)入社 1994年 7月 同社経営企画本部企画部長 2000年10月 新興ブランテック株式会社企画部長 2005年 6月 同社取締役就任 2009年 6月 同社代表取締役副社長就任 2014年 6月 同社相談役就任 2015年 6月 当社取締役就任 2017年 6月 当社代表取締役専務就任 2018年 6月 当社代表取締役専務営業本部長就任 2019年 6月 当社代表取締役社長就任(現任)	(注)3	10
常務取締役 営業本部長 兼 管理本部長	上田 正博	1970年 6月15日生	2006年10月 当社入社 2007年 3月 当社管理部電算課長 2007年 9月 当社管理部長兼経理課長兼電算課長 2009年 6月 当社執行役員管理部長兼経理課長 2012年 4月 当社執行役員管理部長兼営業部次長 2015年 6月 当社取締役管理部長就任 2017年 6月 当社取締役就任 2018年 6月 当社取締役管理本部長就任 2019年 6月 当社常務取締役営業本部長兼管理本部長就任(現任)	(注)3	1
取締役 技術本部長	鈴木 宗行	1964年 1月18日生	1986年 4月 当社入社 1998年 4月 当社製造部第三課長 2000年 4月 当社生産技術部品品質保証課長 2002年10月 当社技術部研究開発課第二課長 2004年 3月 当社技術部次長 2005年 4月 当社技術部長 2006年 6月 当社取締役兼執行役員技術部長就任 2008年 1月 当社取締役兼執行役員品質保証部長兼生産部長就任 2009年 6月 当社代表取締役社長就任 2010年 2月 当社代表取締役社長兼工務本部長就任 2010年 7月 当社代表取締役社長兼技術開発本部長就任 2012年 4月 当社代表取締役社長兼営業部長就任 2012年 6月 当社取締役兼執行役員営業部長就任 2014年 6月 当社取締役営業部長就任 2016年 6月 当社取締役就任 2018年 6月 当社取締役生産管理本部長兼技術本部副本部長兼営業本部副本部長就任 2019年 6月 当社取締役技術本部長就任(現任)	(注)3	2

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 品質保証本部長	川出 明史	1960年4月25日生	1996年3月 2005年4月 2006年6月 2009年6月 2010年7月 2010年10月 2011年4月 2012年4月 2013年11月 2014年6月 2015年4月 2017年6月 2018年6月 2019年6月	当社入社 当社品質保証部長 当社執行役員品質保証部長 当社執行役員技術部長兼品質保証部長兼内部監査室長 当社執行役員内部監査室長 当社取締役兼執行役員品質保証部長就任 当社取締役兼執行役員生産本部長兼本社工場長就任 当社取締役兼執行役員生産本部長就任 当社取締役兼執行役員業務部長就任 当社取締役業務部長就任 当社取締役品質保証部長就任 当社取締役就任 当社取締役品質保証本部長兼製造本部長就任 当社取締役品質保証本部長就任(現任)	(注)3	2
取締役相談役	長谷川 憲治	1943年1月3日生	1972年8月 1993年1月 2000年6月 2009年6月 2010年10月 2011年6月 2011年6月 2012年6月 2013年10月 2017年6月 2018年6月 2019年6月	税理士事務所開設 当社顧問税理士 当社監査役就任 当社常勤監査役就任 北斗中央税理士法人相談役(現任) 当社常勤監査役退任 当社取締役就任 当社常務取締役就任 当社代表取締役専務就任 当社取締役相談役就任 当社取締役就任 当社取締役相談役就任(現任)	(注)3	5
取締役	秦 博文	1951年12月16日生	1979年10月 1999年5月 2007年7月 2014年6月 2014年7月 2015年6月 2015年6月 2017年6月 2017年6月	監査法人八木・浅野事務所(現 EY新日本有限責任監査法人)入所 太田昭和監査法人(現 EY新日本有限責任監査法人)代表社員就任 日本公認会計士協会理事 新日本有限責任監査法人(現 EY新日本有限責任監査法人)退所 公認会計士秦博文事務所所長(現任) 株式会社パロー(現 株式会社パローホールディングス)社外取締役就任(現任) 当社監査役就任 当社監査役退任 当社取締役就任(現任)	(注)3	
監査役 (常勤)	垣見 泰年	1956年12月21日生	1979年4月 1998年4月 1998年11月 1999年5月 2001年1月 2002年4月 2003年9月 2003年10月 2004年10月 2010年2月 2014年4月 2014年6月	当社入社 当社総務部総務課長 当社管理部管理課長 当社管理部経理課長 当社業務部業務課長 当社生産本部生産管理課長 当社総務部総務課長 当社管理部経理課長 当社管理部次長兼管理部経理課長 当社管理部経理課長 当社管理部経理課参事補 当社常勤監査役就任(現任)	(注)4	1

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役	串田 正克	1950年12月7日生	1986年4月 2001年6月 2011年6月	串田法律事務所開設 同事務所所長(現任) セブン工業株式会社監査役就任(現任) 当社監査役就任(現任)	(注)5	
監査役	稲石 純二	1951年8月15日生	1974年4月 1995年4月 1998年4月 2000年6月 2002年6月 2004年4月 2007年6月  2012年6月 2017年6月	株式会社名古屋銀行入行 同行 師勝支店長 同行 川原通支店長 同行 東新町支店長 同行 豊田南支店長 同行 浜松支店長 株式会社名古屋住宅流通サービス取締役就任 同社取締役退任 当社監査役就任(現任)	(注)6	
計						22

- (注) 1. 取締役秦博文は、社外取締役であります。
2. 監査役串田正克及び稲石純二は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2020年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役 垣見泰年の任期は、2018年3月期に係る定時株主総会終結の時から2022年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5. 監査役 串田正克の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2023年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
6. 監査役 稲石純二の任期は、2017年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
7. 執行役員は、執行役員製造本部長 武内元幸及び執行役員生産管理本部長 永田弘が選任されております。

## 社外役員の状況

### a. 社外取締役及び社外監査役と当社との関係

当社の社外取締役は1名であり、取締役秦博文氏は株式会社パローホールディングスの社外取締役を兼務しております。当社は秦博文氏及び株式会社パローホールディングスとの間には資本的関係、その他の人的関係、取引関係及びその他の利害関係はございません。

当社の社外監査役は2名であり、監査役串田正克氏はセブン工業株式会社の社外監査役を兼務しております。当社は串田正克氏及びセブン工業株式会社との間には資本的関係、その他の人的関係、取引関係及びその他の利害関係はございません。また、当社は監査役稲石純二氏との間には資本的関係、その他の人的関係、取引関係及びその他の利害関係はございません。

### b. 社外取締役及び社外監査役の選任状況に関する提出会社の考え方

当社において、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性について特段の定めはありませんが、専門的な知見に基づく客観的かつ適切な監督又は監査といった機能及び役割が期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として、選任しております。

- ・ 取締役秦博文氏につきましては、同氏のこれまでの公認会計士として培われた豊富な経験や専門知識を客観的な立場から当社の経営体制に活かしていただく観点で選任しております。
- ・ 監査役串田正克氏につきましては、同氏のこれまでの弁護士として培われた豊富な経験や専門知識を客観的な立場から当社の監査体制に活かしていただく観点で選任しております。
- ・ 監査役稲石純二氏につきましては、同氏のこれまでの経営に関する経験や専門知識を客観的な立場から当社の監査体制に活かしていただく観点で選任しております。

### c. 社外監査役による監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外監査役は、それぞれの監査にあたり必要に応じて、内部監査室、監査役及び会計監査人と協議・報告・情報交換を行うことにより、相互連携を図っております。

内部監査室とは、部門監査の実施報告を受け、内部統制状況の把握等緊密な関係を維持しております。また、会計監査人とは監査の方法などについて、専門的知見から意見・情報交換等を実施し、相互連携を図っております。

### (3) 【監査の状況】

#### 監査役監査の状況

監査役は取締役会等の重要な会議に出席し、取締役の業務執行について厳正な監査を行い、内部監査室及び会計監査人による監査結果の報告を受け、相互に意見交換を行っております。

- ・ 監査役垣見泰年氏は、当社の経理部門において経理経験を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
- ・ 監査役串田正克氏は、弁護士の資格を有しており、企業法務や財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
- ・ 監査役稲石純二氏は、金融機関における長年の経験を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

#### 内部監査の状況

内部監査室（担当3名）は2018年度内部監査計画書に基づき、総務・経理の重要資料の閲覧・確認を行い、業務処理の適正性・効率性をチェックし、監査結果を内部監査報告書として、代表取締役に報告しております。

#### 会計監査の状況

##### a．監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

（注）新日本有限責任監査法人は、名称変更により、2018年7月1日をもって、EY新日本有限責任監査法人となりました。

##### b．業務を執行した公認会計士

水野 大  
松岡 和雄

##### c．監査業務に係る補助者の構成

公認会計士	3名
その他	7名

##### d．監査法人の選定方針と理由

監査法人の選定方針は特に定めておりませんが、EY新日本有限責任監査法人を選定する理由は、会計監査人としての品質管理体制、独立性及び専門性の有無、当社の事業分野への理解度等を総合的に勘案し、検討した結果、適任と判断したためであります。

なお、当社の監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

##### e．監査役および監査役会による監査法人の評価

当社の監査役会は、日本監査役協会発行「会計監査人の評価及び選定基準に関する監査役等の実務指針 平成29年10月13日改定」に基づき評価を行っております。また、被監査部門である経理部門および内部監査室から活動実態について報告を受けるほか、EY新日本有限責任監査法人と定期的に緊密なコミュニケーションをとっており、適時かつ適切に意見交換や監査状況を把握し、監査法人の評価は適切であると判断しております。



監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
20,800		20,800	

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当該事項はありませんが、規模・特性・監査日数を勘案した上、決定しております。

e. 監査役が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社の監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人が提出した監査計画の妥当性や適正性等を確認し検討した結果、会計監査人の報酬等は合理的な水準であると判断し、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針は定めておりませんが、役員報酬等の総額は2018年6月26日開催の定時株主総会において、取締役の報酬額を年額180,000千円以内（うち、社外取締役分15,000千円以内。ただし、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない。）、監査役の報酬額を年額30,000千円以内と決議し、取締役の報酬等の決定方法は取締役会において、監査役の報酬等の決定方法は監査役会において決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の 総額(千円)		対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	ストック オプション	
取締役 (社外取締役を除く。)	100,163	92,253	7,909	6
監査役 (社外監査役を除く。)	10,050	10,050		1
社外役員	12,600	12,600		3

(注) 当社は、2014年6月27日開催の第60期定時株主総会において、役員退職慰労金制度を廃止し、取締役及び監査役に対する退職慰労金を打ち切り支給することとし、その支給の時期は、各取締役及び監査役の退任時とすることを決議いたしました。

提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、投資株式について、資産運用の一環として、もっぱら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、個別の特定投資株式について、取締役会において、取引関係の維持強化等といった事業上のメリットに加えて、当該株式の市場価額、配当収益その他の経済合理性等を基に保有目的の適切性や収益性を取締役会で検証しております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	1	99,813
非上場株式以外の株式	17	2,314,247

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式			
非上場株式以外の株式	3	9,871	取引関係の維持強化を目的とした取得。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式		
非上場株式以外の株式	2	32,743

ｃ．特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株) 貸借対照表計上額 (千円)	株式数(株) 貸借対照表計上額 (千円)		
横浜冷凍(株)	617,700	617,700	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	有
	552,223	645,496		
ブルドックソース(株)	233,800	233,800	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	有
	489,577	519,036		
新興ブランテック(株)	396,000	396,000	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	有
	467,280	378,972		
日清食品ホールディングス(株)	35,494	34,798	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1 (増加した理由)取引関係の維持強化。	無
	269,758	256,806		
(株)愛知銀行	41,000	41,000	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	有
	140,835	219,760		
(株)大垣共立銀行	46,800	46,800	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	有
	107,640	125,330		
(株)十六銀行	42,900	42,900	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	有
	96,439	121,621		
ハウス食品グループ本社(株)	21,262	40,580	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	無
	94,620	143,449		
理研ビタミン(株)	10,670	10,195	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1 (増加した理由)取引関係の維持強化。	無
	37,452	42,001		
(株)名古屋銀行	5,700	5,700	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	有
	20,349	22,543		
焼津水産化学工業(株)	14,850	14,850	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	有
	16,557	18,636		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	18,000	18,000	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	無
	9,900	12,546		
(株)永谷園ホールディングス	2,040	4,080	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	無
	5,069	5,944		
第一生命ホールディングス(株)	2,400	2,400	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	無
	3,691	4,662		
(株)みずほフィナンシャルグループ	6,097	6,097	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	無
	1,044	1,166		
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	231	231	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	無
	918	994		
東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	2,222	2,222	(保有目的)取引関係の維持強化。 (定量的な保有効果) 1	無
	891	1,633		
(株)りそなホールディングス		5,600		無
		3,147		

(注) 1. 特定投資株式における定量的な保有効果につきましては、守秘義務の観点から記載が困難であるため、記載しておりません。なお、保有の合理性につきましては、個別銘柄毎に、事業上の取引関係や配当利回り等を総合的に勘案し、検証しており、全ての銘柄において保有の合理性があると判断しております。

2. (株)永谷園ホールディングスは、2018年10月1日に株式併合を実施し2株につき1株の割合で併合しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は、名称変更により、2018年7月1日をもって、EY新日本有限責任監査法人となりました。

### 3 連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

### 4 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下のとおり財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへ参加しております。

## 1 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	6,321,583	6,928,503
受取手形	1 169,759	1 194,304
売掛金	1,368,456	1,482,570
製品	678,687	546,807
仕掛品	380,004	398,343
原材料及び貯蔵品	387,599	357,338
前払費用	14,371	13,485
その他	19,922	6,681
貸倒引当金	154	-
流動資産合計	9,340,231	9,928,035
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	4,109,181	4,148,194
減価償却累計額	2,343,704	2,441,757
建物(純額)	1,765,476	1,706,436
構築物	346,810	347,225
減価償却累計額	272,673	278,421
構築物(純額)	74,136	68,803
機械及び装置	7,611,139	7,720,292
減価償却累計額	6,382,092	6,655,610
機械及び装置(純額)	1,229,046	1,064,682
車両運搬具	55,513	53,333
減価償却累計額	50,923	51,819
車両運搬具(純額)	4,589	1,514
工具、器具及び備品	243,748	254,881
減価償却累計額	216,045	209,497
工具、器具及び備品(純額)	27,703	45,384
土地	2,468,073	2,558,304
建設仮勘定	8,492	4,452
有形固定資産合計	5,577,518	5,449,578
<b>無形固定資産</b>		
借地権	8,161	8,161
ソフトウェア	8,409	3,804
ソフトウェア仮勘定	-	3,200
電話加入権	1,231	1,231
その他	549	379
無形固定資産合計	18,352	16,778
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2,726,689	2,414,060
破産更生債権等	1,443,567	1,442,482
長期前払費用	-	1,309
その他	222,500	241,885
貸倒引当金	1,443,567	1,442,482
投資その他の資産合計	2,949,190	2,657,254
<b>固定資産合計</b>	<b>8,545,061</b>	<b>8,123,611</b>
<b>資産合計</b>	<b>17,885,293</b>	<b>18,051,647</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	-	1 514
買掛金	621,479	417,350
短期借入金	2 750,000	2 680,000
未払金	139,611	180,015
未払費用	109,075	109,799
未払法人税等	281,518	137,970
未払消費税等	63,379	108,184
預り金	28,645	30,299
賞与引当金	120,000	120,000
設備関係支払手形	1,432	214
その他	-	1,431
流動負債合計	2,115,143	1,785,778
固定負債		
役員退職慰労引当金	24,340	24,340
繰延税金負債	132,382	113,587
資産除去債務	55,576	55,649
固定負債合計	212,298	193,576
負債合計	2,327,441	1,979,354
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,672,275	3,672,275
資本剰余金		
資本準備金	3,932,375	3,932,375
その他資本剰余金	512,418	512,428
資本剰余金合計	4,444,793	4,444,803
利益剰余金		
利益準備金	153,500	153,500
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	3 13,050	3 11,329
別途積立金	8,460,103	8,760,103
繰越利益剰余金	1,798,116	2,039,712
利益剰余金合計	10,424,770	10,964,646
自己株式	3,429,384	3,429,394
株主資本合計	15,112,454	15,652,329
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	420,212	386,868
評価・換算差額等合計	420,212	386,868
新株予約権	25,184	33,093
純資産合計	15,557,851	16,072,292
負債純資産合計	17,885,293	18,051,647

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)
売上高	6,640,985	6,850,843
売上原価		
製品期首たな卸高	588,857	678,687
当期製品製造原価	4,714,985	4,785,627
酒税	12,684	16,108
合計	5,316,527	5,480,422
製品他勘定振替高	15,444	12,942
製品期末たな卸高	678,687	546,807
売上原価合計	<sup>1</sup> 4,622,395	<sup>1</sup> 4,920,671
売上総利益	2,018,589	1,930,171
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	102,831	108,554
広告宣伝費	21,123	18,342
役員報酬	99,732	114,903
給料及び賞与	149,476	157,252
賞与引当金繰入額	22,035	21,745
退職給付費用	7,694	8,152
株式報酬費用	8,187	7,909
賃借料	18,544	18,656
減価償却費	7,241	7,170
事業税	66,091	63,022
支払手数料	56,529	54,200
試験研究費	186,081	194,692
その他	107,563	112,374
販売費及び一般管理費合計	<sup>2</sup> 853,133	<sup>2</sup> 886,978
営業利益	1,165,456	1,043,193
営業外収益		
受取利息	1,196	1,173
受取配当金	61,189	58,560
貸倒引当金戻入額	2,985	1,238
その他	26,083	29,910
営業外収益合計	91,455	90,883
営業外費用		
支払利息	4,639	3,886
貯蔵品処分損	1,850	5,934
養老保険積立金取崩損	1,613	-
その他	47	417
営業外費用合計	8,150	10,238
経常利益	1,248,760	1,123,838

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
<b>特別利益</b>		
受取損害賠償金	2,647	-
投資有価証券売却益	95,447	87,352
受取保険金	-	15,762
特別利益合計	98,094	103,114
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	3 4,023	3 3,936
投資有価証券評価損	-	159,501
その他	-	1,402
特別損失合計	4,023	164,839
税引前当期純利益	1,342,830	1,062,113
法人税、住民税及び事業税	406,800	329,058
法人税等調整額	18,830	5,783
法人税等合計	387,969	334,842
当期純利益	954,861	727,271



【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		2,639,348	55.5	2,607,257	54.2
労務費		908,395	19.1	949,830	19.8
経費		1,207,308	25.4	1,248,838	26.0
当期総製造費用		4,755,051	100.0	4,805,926	100.0
仕掛品期首たな卸高		340,902		380,004	
合計		5,095,953		5,185,930	
仕掛品期末たな卸高		380,004		398,343	
他勘定振替高		964		1,960	
当期製品製造原価		4,714,985		4,785,627	

(注) 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
外注加工費	32,083	37,480
減価償却費	405,860	411,611
燃料費	157,456	173,579
電力費	140,458	146,015
消耗工具費	126,828	132,589

(原価計算の方法)

当社の原価計算は、工程別製品別実際総合原価計算であります。

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
					固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	3,672,275	3,932,375	512,418	4,444,793	153,500	14,765	8,160,103	1,328,936	9,657,305
当期変動額									
剰余金の配当								187,397	187,397
当期純利益								954,861	954,861
固定資産圧縮積立金の 取崩						1,715		1,715	
別途積立金の積立							300,000	300,000	-
自己株式の取得									
自己株式の処分									
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	1,715	300,000	469,179	767,464
当期末残高	3,672,275	3,932,375	512,418	4,444,793	153,500	13,050	8,460,103	1,798,116	10,424,770

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	3,429,256	14,345,117	459,907	459,907	16,997	14,822,022
当期変動額						
剰余金の配当		187,397				187,397
当期純利益		954,861				954,861
固定資産圧縮積立金の 取崩		-				-
別途積立金の積立		-				-
自己株式の取得	128	128				128
自己株式の処分		-				-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			39,694	39,694	8,187	31,507
当期変動額合計	128	767,336	39,694	39,694	8,187	735,829
当期末残高	3,429,384	15,112,454	420,212	420,212	25,184	15,557,851

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
					固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	3,672,275	3,932,375	512,418	4,444,793	153,500	13,050	8,460,103	1,798,116	10,424,770
当期変動額									
剰余金の配当								187,395	187,395
当期純利益								727,271	727,271
固定資産圧縮積立金の取崩						1,720		1,720	-
別途積立金の積立							300,000	300,000	-
自己株式の取得									
自己株式の処分			9	9					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									
当期変動額合計	-	-	9	9	-	1,720	300,000	241,595	539,875
当期末残高	3,672,275	3,932,375	512,428	4,444,803	153,500	11,329	8,760,103	2,039,712	10,964,646

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	3,429,384	15,112,454	420,212	420,212	25,184	15,557,851
当期変動額						
剰余金の配当		187,395				187,395
当期純利益		727,271				727,271
固定資産圧縮積立金の取崩		-				-
別途積立金の積立		-				-
自己株式の取得	25	25				25
自己株式の処分	15	25				25
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			33,344	33,344	7,909	25,434
当期変動額合計	9	539,875	33,344	33,344	7,909	514,440
当期末残高	3,429,394	15,652,329	386,868	386,868	33,093	16,072,292

## 【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	1,342,830	1,062,113
減価償却費	422,255	432,861
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,985	1,238
賞与引当金の増減額(は減少)	6,000	-
保険解約損益(は益)	1,155	1,470
受取利息及び受取配当金	62,385	59,734
支払利息	4,639	3,886
有形固定資産除却損	4,023	3,936
投資有価証券評価損益(は益)	-	159,501
投資有価証券売却損益(は益)	95,447	86,024
売上債権の増減額(は増加)	404,086	138,659
たな卸資産の増減額(は増加)	207,222	140,625
その他の流動資産の増減額(は増加)	15,394	14,090
仕入債務の増減額(は減少)	334,127	204,833
未払金の増減額(は減少)	33,541	9,956
未払費用の増減額(は減少)	15,414	728
未払消費税等の増減額(は減少)	27,275	44,804
破産更生債権等の増減額(は増加)	3,026	1,084
その他の流動負債の増減額(は減少)	5,776	2,167
受取保険金	4,367	20,106
受取損害賠償金	2,647	-
その他	10,477	9,692
小計	1,413,698	1,369,046
利息及び配当金の受取額	62,390	59,741
保険金の受取額	4,367	20,106
損害賠償金の受取額	2,647	-
利息の支払額	4,580	3,861
法人税等の支払額	176,261	467,354
法人税等の還付額	20,935	-
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,323,196</b>	<b>977,679</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	106,608	273,702
無形固定資産の取得による支出	444	-
投資有価証券の取得による支出	216,699	9,871
投資有価証券の売却による収入	215,696	190,606
長期前払費用の取得による支出	-	3,018
その他の収入	7,964	3,333
その他の支出	20,929	21,247
その他	431	493
投資活動によるキャッシュ・フロー	120,588	113,404
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	60,000	-
短期借入金の返済による支出	-	70,000
自己株式の取得による支出	128	25
自己株式の売却による収入	-	25
配当金の支払額	187,554	187,354
財務活動によるキャッシュ・フロー	127,682	257,354
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,074,924	606,920
現金及び現金同等物の期首残高	5,246,658	6,321,583
現金及び現金同等物の期末残高	6,321,583	6,928,503

## 【注記事項】

### (重要な会計方針)

#### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

##### その他有価証券

###### 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

###### 時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

#### 2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

##### 通常の販売目的で保有するたな卸資産

###### 製品、仕掛品及び原材料

総平均法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

###### 貯蔵品

最終仕入原価法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

#### 3. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産

###### 定率法

ただし、機械及び装置および1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、建物3年～38年、構築物7年～50年、機械及び装置4年～10年、車両運搬具4年、工具器具及び備品2年～20年であります。

##### (2) 無形固定資産

###### 定額法

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

#### 4. 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

##### (3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づき、2014年6月27日(第60期定時株主総会)までの在任期間に対する将来の見込額を計上しております。

#### 5. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

#### 6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

##### 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は当事業年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」63,952千円は、「固定負債」の「繰延税金負債」132,382千円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

- 1 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。  
なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
受取手形	48,196千円	58,801千円
支払手形	千円	514千円

- 2 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

事業年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
当座貸越限度額及び 貸出コミットメントの総額	2,300,000千円	2,300,000千円
借入実行残高	750,000千円	680,000千円
差引額	1,550,000千円	1,620,000千円

- 3 固定資産圧縮積立金は租税特別措置法に基づいて計上したものであります。

(損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下による簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	25,329千円	16,522千円

- 2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	186,081千円	194,692千円

- 3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物	154千円	972千円
構築物	0千円	134千円
機械及び装置	3,866千円	2,398千円
車両運搬具	0千円	0千円
工具、器具及び備品	2千円	40千円
建設仮勘定	-千円	390千円
計	4,023千円	3,936千円



(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

## 1.発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	9,326,460	-	-	9,326,460

## 2.自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	3,079,855	89	-	3,079,944

(変動事由の概要)

増減数の内訳は次のとおりであります。

単元未満株式の買取請求による増加

89株

## 3.新株予約権等に関する事項

内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当事業年度末残高(千円)
		当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末	
2014年ストック・オプションとしての 新株予約権						4,989
2015年ストック・オプションとしての 新株予約権						5,520
2016年ストック・オプションとしての 新株予約権						6,488
2017年ストック・オプションとしての 新株予約権						8,187
合計						25,184

## 4.配当に関する事項

## (1)配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2017年6月27日 定時株主総会	普通株式	93,699	15.00	2017年3月31日	2017年6月28日
2017年10月27日 取締役会	普通株式	93,698	15.00	2017年9月30日	2017年12月4日

## (2)基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	93,697	15.00	2018年3月31日	2018年6月27日

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1.発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	9,326,460	-	-	9,326,460

2.自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	3,079,944	12	14	3,079,942

(変動事由の概要)

増減数の内訳は次のとおりであります。

単元未満株式の買取請求による増加 12株  
単元未満株式の買増請求による減少 14株

3.新株予約権等に関する事項

内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)			当事業年度末残高(千円)
		当事業年度期首	増加	減少	
2014年ストック・オプションとしての 新株予約権					4,989
2015年ストック・オプションとしての 新株予約権					5,520
2016年ストック・オプションとしての 新株予約権					6,488
2017年ストック・オプションとしての 新株予約権					8,187
2018年ストック・オプションとしての 新株予約権					7,909
合計					33,093

4.配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	93,697	15.00	2018年3月31日	2018年6月27日
2018年10月26日 取締役会	普通株式	93,697	15.00	2018年9月30日	2018年12月10日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	93,697	15.00	2019年3月31日	2019年6月26日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	6,321,583千円	6,928,503千円
現金及び現金同等物	6,321,583千円	6,928,503千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、必要な資金調達については、銀行等金融機関からの借入れにより調達しております。資金運用については、大半を短期的な預金で運用しております。また、一部の余裕資金の効率的な運用を図ることを目的に有価証券運用規程・基準に則り投資信託等の運用を行っておりますが、決して投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金の回収については、顧客の信用リスクが考えられます。当該リスクに関しては、当社の販売管理規程及び与信規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として取引先の株式であり、これについてのリスクとしては、市場価格の変動リスクが考えられます。上場株式については毎月把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが4ヶ月以内の支払期日であります。借入金は、主に営業取引に係る資金調達を目的としたものであり、これに関するリスクとしては、金利の変動リスクが考えられますが、基本的にリスクの低い短期のものに限定しております。また、担当部署において適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。(注2)参照)

前事業年度(2018年3月31日)

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	6,321,583	6,321,583	
(2) 受取手形	169,759	169,759	
(3) 売掛金	1,368,456	1,368,456	
(4) 投資有価証券 其他有価証券	2,626,876	2,626,876	
(5) 破産更生債権等 貸倒引当金( )	1,443,567 1,443,567		
資産計	10,486,676	10,486,676	
(1) 支払手形	-	-	
(2) 買掛金	621,479	621,479	
(3) 短期借入金	750,000	750,000	
負債計	1,371,479	1,371,479	

( )破産更生債権等に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

当事業年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	6,928,503	6,928,503	
(2) 受取手形	194,304	194,304	
(3) 売掛金	1,482,570	1,482,570	
(4) 投資有価証券 其他有価証券	2,314,247	2,314,247	
(5) 破産更生債権等 貸倒引当金( )	1,442,482 1,442,482		
資産計	10,919,626	10,919,626	
(1) 支払手形	514	514	
(2) 買掛金	417,350	417,350	
(3) 短期借入金	680,000	680,000	
負債計	1,097,864	1,097,864	

( )破産更生債権等に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1)現金及び預金、(2)受取手形、及び(3)売掛金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、その他投資信託はオープン基準価格によっております。

(5)破産更生債権等

破産更生債権等については、全額貸倒引当金を計上しております。

負債

(1)支払手形、(2)買掛金、及び(3)短期借入金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	2018年3月31日	2019年3月31日
非上場株式	99,813	99,813

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4)投資有価証券」には含めておりません。

(注3)金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度(2018年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超
現金及び預金	6,321,583	
受取手形	169,759	
売掛金	1,368,456	
合計	7,859,799	

当事業年度(2019年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超
現金及び預金	6,928,503	
受取手形	194,304	
売掛金	1,482,570	
合計	8,605,378	

(注4)短期借入金の決算日後の返済予定額

前事業年度(2018年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超
短期借入金	750,000	
合計	750,000	

当事業年度(2019年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超
短期借入金	680,000	
合計	680,000	

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前事業年度(2018年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	2,057,037	1,416,276	640,760
その他	72,886	40,503	32,382
小計	2,129,923	1,456,780	673,143
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	466,711	522,988	56,276
その他	30,241	31,828	1,586
小計	496,953	554,816	57,863
合計	2,626,876	2,011,597	615,279

(注) 1. 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ30%以上下落した場合には全て減損処理を行っております。

2. 非上場株式(貸借対照表計上額 99,813千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(2019年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	1,969,333	1,393,403	575,929
その他			
小計	1,969,333	1,393,403	575,929
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	344,914	522,988	178,074
その他			
小計	344,914	522,988	178,074
合計	2,314,247	1,916,392	397,855

(注) 1. 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ30%以上下落した場合には全て減損処理を行っております。

2. 非上場株式(貸借対照表計上額 99,813千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	215,696	95,447	
その他			
合計	215,696	95,447	

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	92,489	59,745	
その他	98,117	27,606	1,327
合計	190,606	87,352	1,327

3. 減損処理を行った有価証券

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

その他有価証券の株式について、159,501千円の減損処理を行っております。

(退職給付関係)

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出年金制度を採用しており、給与と勤務期間に基づいた掛け金を支払っております。

2. 確定拠出制度に係る退職給付費用の額

当社の確定拠出制度への要拠出額は、43,161千円であります。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出年金制度を採用しており、給与と勤務期間に基づいた掛け金を支払っております。

2. 確定拠出制度に係る退職給付費用の額

当社の確定拠出制度への要拠出額は、45,285千円であります。

(ストック・オプション等関係)

## 1. スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

	前事業年度	当事業年度
販売費及び一般管理費の 株式報酬費用	8,187千円	7,909千円

## 2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

## (1) スtock・オプションの内容

決議年月日	2014年7月18日	2015年7月17日	2016年7月22日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役4名	当社取締役5名	当社取締役5名
株式の種類別のストック・ オプションの数(注)1	普通株式 7,970株	普通株式 8,190株	普通株式 10,170株
付与日	2014年8月4日	2015年8月3日	2016年8月8日
権利確定条件	定めはありません	定めはありません	定めはありません
対象勤務期間	定めはありません	定めはありません	定めはありません
権利行使期間	2014年8月5日 ~2044年8月4日 新株予約権者は、当社の取 締役の地位を喪失した日の 翌日以降、割当てを受けた 新株予約権を行使すること ができる。	2015年8月4日 ~2045年8月3日 新株予約権者は、当社の取 締役の地位を喪失した日の 翌日以降、割当てを受けた 新株予約権を行使すること ができる。	2016年8月9日 ~2046年8月8日 新株予約権者は、当社の取 締役の地位を喪失した日の 翌日以降、割当てを受けた 新株予約権を行使すること ができる。
新株予約権の数 (注)2	797個(注)3	819個(注)3	1,017個(注)3
新株予約権の目的となる株 式の種類、内容及び数 (注)2	普通株式 7,970株	普通株式 8,190株	普通株式 10,170株
新株予約権の行使時の払込 金額(注)2	1円	1円	1円
新株予約権の行使により株 式を発行する場合の株式の 発行価格及び資本組入額 (注)2	発行価格 627円 資本組入額 (注)4	発行価格 675円 資本組入額 (注)4	発行価格 639円 資本組入額 (注)4
新株予約権の行使の条件 (注)2	当社の取締役の地位を喪失した日の翌日以降、新株予約権を行使できるものとする。		
新株予約権の譲渡に関する 事項(注)2	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。		
組織再編成行為に伴う新株 予約権の交付に関する事項 (注)2	(注)5	(注)5	(注)5



決議年月日	2017年 8月25日	2018年 7月20日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 6名	当社取締役 6名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)1	普通株式 8,090株	普通株式 6,010株
付与日	2017年 9月11日	2018年 8月 6日
権利確定条件	定めはありません	定めはありません
対象勤務期間	定めはありません	定めはありません
権利行使期間	2017年 9月12日 ～2047年 9月11日 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日以降、割当てを受けた新株予約権を行使することができる。	2018年 8月 7日 ～2048年 8月 6日 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日以降、割当てを受けた新株予約権を行使することができる。
新株予約権の数(注)2	809個(注)3	601個(注)3
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(注)2	普通株式 8,090株	普通株式 6,010株
新株予約権の行使時の払込金額(注)2	1円	1円
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(注)2	発行価格 1,013円 資本組入額 (注)4	発行価格 1,317円 資本組入額 (注)4
新株予約権の行使の条件(注)2	当社の取締役の地位を喪失した日の翌日以降、新株予約権を行使できるものとする。	
新株予約権の譲渡に関する事項(注)2	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項(注)2	(注)5	(注)5

(注) 1. 株式数に換算して記載しております。

2. 当事業年度末における内容を記載しております。なお、有価証券報告書提出日の属する月の前月末(2019年5月31日)現在において、これらの事項に変更はありません。

3. 新株予約権1個につき目的となる株式数(以下「付与株式数」という。)は、10株であります。新株予約権割当て後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により付与株式数を調整し、調整により生ずる1株未満の端数は切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{株式分割又は株式併合の比率}$$

また、割当日以降、当社が合併又は会社分割を行う場合その他これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で付与株式数を適切に調整することができる。

4. (1) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

(2) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

5. 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）又は株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合には、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ。）の直前において残存する新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とする。

- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数  
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類  
再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数  
組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記1に準じて決定する。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定められる再編後行使価額に上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間  
本新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、本新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
上記2に準じて決定する。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要する。
- (8) 新株予約権の取得条項  
残存新株予約権に定められた事項に準じて決定する。
- (9) その他の新株予約権の行使の条件  
上記の新株予約権の行使の条件に準じて決定する。

(追加情報)

「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2)新株予約権等の状況 ストックオプション制度の内容」に記載すべき事項をストック・オプション等関係注記に集約して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当事業年度(2019年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

決議年月日	2014年7月18日	2015年7月17日	2016年7月22日	2017年8月25日	2018年7月20日
権利確定前(株)					
前事業年度末					
付与					6,010
失効					
権利確定					6,010
未確定残					
権利確定後(株)					
前事業年度末	7,970	8,190	10,170	8,090	
権利確定					6,010
権利行使					
失効					
未行使残	7,970	8,190	10,170	8,090	6,010

単価情報

決議年月日	2014年7月18日	2015年7月17日	2016年7月22日	2017年8月25日	2018年7月20日
権利行使価格(円)	1	1	1	1	1
行使時平均株価(円)					
付与日における 公正な評価単価(円)	626	674	638	1,012	1,316

3. 当事業年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

(2) 主な基礎数値及びその見積方法

株価変動性	(注) 1	38.3%
予想残存期間	(注) 2	15年
予想配当	(注) 3	30円/株
無リスク利率	(注) 4	0.368%

(注) 1. 15年間(2003年8月から2018年8月まで)の株価実績に基づき算定しております。

2. 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積っております。

3. 2018年3月期の配当実績によっております。

4. 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税等	20,497千円	13,562千円
賞与引当金	36,720千円	36,720千円
貸倒引当金	1,562,733千円	1,562,401千円
役員退職慰労引当金	7,448千円	7,448千円
減損損失	9,615千円	8,848千円
投資有価証券評価損	34,350千円	49,087千円
資産除去債務	17,006千円	17,028千円
新株予約権	7,706千円	10,126千円
その他	7,794千円	6,575千円
繰延税金資産小計	1,703,871千円	1,711,798千円
評価性引当額	1,635,433千円	1,649,902千円
繰延税金資産合計	68,438千円	61,896千円
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	5,754千円	4,995千円
その他有価証券評価差額金	195,066千円	170,488千円
繰延税金負債合計	200,820千円	175,483千円
繰延税金負債の純額	132,382千円	113,587千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.8%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.2%	0.2%
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	0.3%	0.3%
住民税均等割等	0.3%	0.4%
評価性引当額の増減	0.3%	1.4%
所得税額控除	0.7%	0.9%
その他	1.1%	0.1%
税効果会計適用後の 法人税等の負担率	28.9%	31.5%

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

本社工場の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を当該契約等を基に見積り、割引率是对応する国債の利回りを参考に合理的と考えられる利率により、資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
期首残高	55,503千円	55,576千円
時の経過による調整額	72千円	72千円
期末残高	55,576千円	55,649千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、食品加工事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1.製品及びサービスごとの情報

食品加工製品の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2.地域ごとの情報

(1)売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2)有形固定資産

本邦以外の国又は地域に所在する子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

3.主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
(株)伊藤園	1,277,924	食品加工事業
MCフードスペシャリティーズ(株)	749,895	食品加工事業

(注)MCフードスペシャリティーズ(株)は、2019年4月1日付けで三菱商事ライフサイエンス(株)に商号を変更しております。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1.製品及びサービスごとの情報

食品加工製品の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2.地域ごとの情報

(1)売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2)有形固定資産

本邦以外の国又は地域に所在する子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

3.主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
(株)伊藤園	1,159,082	食品加工事業
MCフードスペシャリティーズ(株)	707,777	食品加工事業

(注)MCフードスペシャリティーズ(株)は、2019年4月1日付けで三菱商事ライフサイエンス(株)に商号を変更しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

## 【関連当事者情報】

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	2,486円61銭	2,567円70銭
1株当たり当期純利益	152円86銭	116円43銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	152円03銭	115円68銭

(注) 1. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(千円)	954,861	727,271
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	954,861	727,271
普通株式の期中平均株式数(株)	6,246,554	6,246,515
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
普通株式増加数(株)	34,396	40,406
(うち新株予約権(株))	(34,396)	(40,406)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	15,557,851	16,072,292
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	25,184	33,093
(うち新株予約権(千円))	(25,184)	(33,093)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	15,532,666	16,039,198
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	6,246,516	6,246,518

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	4,109,181	51,736	12,723	4,148,194	2,441,757	109,729	1,706,436
構築物	346,810	1,294	879	347,225	278,421	6,492	68,803
機械及び装置	7,611,139	137,911	28,757	7,720,292	6,655,610	299,120	1,064,682
車両運搬具	55,513		2,180	53,333	51,819	3,075	1,514
工具、器具及び備品	243,748	27,318	16,185	254,881	209,497	9,596	45,384
土地	2,468,073	90,230		2,558,304			2,558,304
建設仮勘定	8,492	214,201	218,241	4,452			4,452
有形固定資産計	14,842,959	522,692	278,967	15,086,685	9,637,106	428,013	5,449,578
無形固定資産							
借地権	8,161			8,161			8,161
ソフトウェア	74,715			74,715	70,910	4,604	3,804
ソフトウェア仮勘定		3,200		3,200			3,200
電話加入権	1,231			1,231			1,231
その他	3,738			3,738	3,358	170	379
無形固定資産計	87,846	3,200		91,046	74,268	4,774	16,778
長期前払費用	-	3,018	1,708	1,309			1,309

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建設仮勘定 本社昆布抽出設備改修工事

37,000千円

## 【社債明細表】

該当事項はありません。

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	750,000	680,000	0.5	
1年以内に返済予定の長期借入金				
1年以内に返済予定のリース債務				
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)				
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)				
その他有利子負債				
合計	750,000	680,000		

(注) 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。



## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	1,443,721			1,238	1,442,482
賞与引当金	120,000	120,000	120,000		120,000
役員退職慰労引当金	24,340				24,340

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、一般債権の貸倒実績率による洗替額及び入金による取崩額であります。

## 【資産除去債務明細表】

当事業年度期首及び当事業年度末における資産除去債務の金額が当事業年度期首及び当事業年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

## (2)【主な資産及び負債の内容】

## 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	578
預金	
当座預金	640,605
普通預金	5,236,477
定期預金	1,050,000
別段預金	842
計	6,927,925
合計	6,928,503

## 受取手形

## 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
鳳商事(株)	156,846
ケーオー産業(株)	9,101
日本食研ホールディングス(株)	7,600
(株)丸福	5,559
(株)今井嘉兵衛商店	3,125
その他	12,070
合計	194,304

## 期日別内訳

期日	金額(千円)
2019年4月満期	139,720
2019年5月満期	53,641
2019年6月満期	928
2019年7月満期	13
合計	194,304

(注) 2019年4月満期の金額には期末日満期手形 58,801千円が含まれております。

## 売掛金

## 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)伊藤園	241,888
MCフードスペシャリティーズ(株)	190,782
味の素(株)	69,663
高砂香料工業(株)	54,474
鳳商事(株)	44,852
その他	880,908
合計	1,482,570

(注) MCフードスペシャリティーズ(株)は、2019年4月1日付けで三菱商事ライフサイエンス(株)に社名変更しております。

## 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	当期末残高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日) $\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	
1,368,456	7,398,105	7,283,991	1,482,570	83.1	70.3

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用していますが、上記金額には消費税等が含まれております。

## 製品

区分	金額(千円)
茶エキス	297,032
粉末天然調味料	111,668
植物エキス	65,700
液体天然調味料	52,719
粉末酒	19,686
合計	546,807

## 仕掛品

区分	金額(千円)
粉末天然調味料	175,924
茶エキス	155,539
植物エキス	59,923
粉末酒	4,458
液体天然調味料	2,497
合計	398,343

原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
消耗工具	67,826
茶類	40,027
包装材料	39,276
魚介類	35,178
調味料類	22,461
澱粉類	17,809
消耗備品	10,519
畜肉類	5,817
アミノ酸類	4,963
アルコール類	4,379
消耗品	1,720
広告宣伝	1,175
材料屑処理	607
その他	105,575
合計	357,338

投資有価証券

区分及び銘柄	金額(千円)
株式	
横浜冷凍(株)	552,223
ブルドックソース(株)	489,577
新興プランテック(株)	467,280
日清食品ホールディングス(株)	269,758
(株)愛知銀行	140,835
その他	494,386
合計	2,414,060

破産更生債権等

相手先	金額(千円)
(株)S F C G(注1)	1,373,067
(株)Jファクター(注2)	28,209
Lehman Brothers Treasury Co. B.V.	25,722
その他	15,483
合計	1,442,482

(注) 1. 当該債権は、(株)A S A及び(株)M A Gねっとホールディングスにより連帯保証されております。

2. 当該債権は、(株)S F C Gにより連帯保証されております。なお、(株)S F C Gは、2009年2月23日に民事再生  
手続開始の申立てを行っていましたが、2009年4月21日に破産手続開始決定がされております。

支払手形  
 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
ヒガシマル醤油(株)	514
合計	514

期日別内訳

期日	金額(千円)
2019年4月満期	514
合計	514

(注) 2019年4月満期の金額には期末日満期手形 514千円が含まれております。

買掛金  
 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)伊藤園	53,062
(株)柳屋本店	30,737
ミヤコ化学(株)	23,463
睦物産(株)	18,828
ヤマヒコ(株)	18,817
その他	272,441
合計	417,350

設備関係支払手形  
 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
オバリー機器(株)	214
合計	214

期日別内訳

期日	金額(千円)
2019年4月満期	214
合計	214

## (3)【その他】

## 当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高 (千円)	1,671,874	3,322,040	5,089,002	6,850,843
税引前四半期(当期)純利益 (千円)	338,020	573,259	769,781	1,062,113
四半期(当期)純利益 (千円)	221,416	382,366	516,827	727,271
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	35.45	61.21	82.74	116.43
(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	35.45	25.77	21.53	33.69

## 重要な訴訟事件等

## イ．当社元取締役に対する損害賠償請求訴訟

当社は、2009年11月11日、当社元取締役6名に対し、これらの者による過去の資産運用等について、取締役としての任務懈怠（善管注意義務違反、忠実義務違反）等があったことを理由に、これにより当社が被った損害（57億5,013万7,260円）の一部（11億円（被告2名についてはその内の3億円）およびこれに対する訴状送達日の翌日から年5分の割合による遅延損害金）について、損害賠償請求訴訟を名古屋地方裁判所に提起しました。本件訴訟につきましては、2011年11月14日、名古屋地方裁判所からの和解勧告に従い、被告6名のうち2名について和解により解決しております。その後、2011年11月24日、名古屋地方裁判所は、和解勧告に応じなかった被告4名のうち2名に対しては、当社の請求どおり、3億円および遅延損害金の支払いを命じ、その余の当社の請求は棄却する旨の判決を言い渡しました。当社としましては、当該判決のうち当社の請求が認められなかった部分を不服として、2011年12月12日、名古屋高等裁判所に控訴を提起していましたが、2013年1月21日、名古屋高等裁判所からの和解勧告に従い、残りの2名については和解により解決しております。一方、和解による解決とならなかった2名は、名古屋地方裁判所による一審判決を不服として、2011年12月9日、名古屋高等裁判所に控訴を提起していましたが、2013年3月28日、名古屋高等裁判所は、当該控訴をいずれも棄却する旨の判決を言い渡しました。その後、同2名は、2013年4月12日付けで最高裁判所に対する上告受理の申立てを行っていましたが、2013年10月1日、最高裁判所は、当該申立てを上告審として受理しない旨の決定を言い渡しました。その後、同2名のうち1名については、東京地方裁判所より2018年1月17日付けで破産手続開始決定、2018年6月8日付けで破産手続廃止決定、2018年6月8日付けで免責許可決定があり、同人からの回収は困難な状況となりました。なお、同2名のうちの他の1名については、現時点で回収の見通しは不確定であることから、詳細が決まり次第、適時開示いたします。

ロ．株式会社MAGねっとホールディングス（当時の商号は、株式会社MAGねっと。以下、「MAGねっと」といいます。）および株式会社ASA（当時の商号は、株式会社KEホールディングス。以下「ASA」といいます。）に対する保証債務履行請求訴訟

当社は、2009年1月16日、株式会社SFCG（以下、「SFCG」といいます。）が発行したコマーシャル・ペーパー（額面金額15億円。以下、「本CP」といいます。）を引き受けた際、同日付けでMAGねっとおよびASAから本CPに係る償還債務全額について保証を受けておりました。その後、SFCGが2009年2月23日、東京地方裁判所民事20部に対し民事再生手続開始を申立てたことにより、本CPに係る償還債務全額についてSFCGが期限の利益を喪失した結果、当社は、保証人であるMAGねっとおよびASAに対し、2009年2月26日、本CPに係る15億円の保証債務履行請求訴訟を東京地方裁判所に提起しました。本件訴訟につきましては、2010年4月30日、東京地方裁判所民事第45部より、原告（当社）の被告ら（MAGねっとおよびASA）に対する総額15億円および遅延損害金の請求権の存在を認める旨の判決が言い渡されました。その後、被告らが東京高等裁判所に控訴しましたが、2010年10月28日、東京高等裁判所第4民事部より、被告らが原告（当社）に対して、連帯して15億円および遅延損害金を支払うよう命じる判決が言い渡されております。

なお、株式会社東京証券取引所は、2016年6月30日、MAGねっとが同日提出した有価証券報告書によって、MAGねっとが2015年3月期決算に続いて2016年3月期決算においても債務超過となったことが確認されたため、MAGねっと株式を2016年8月1日に上場廃止とすることを決定し、整理銘柄に指定しました。その後、MAGねっと株式は、2016年8月1日付けで上場廃止となりました。

今後とも、判決に基づく回収の見通しは不確定であることから、詳細が決まり次第、適時開示いたします。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・ 売渡し	
取扱場所	(特別口座) 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取・売渡手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載しております。なお、電子公告は当社のホ - ムペ - ジに掲載しており、そのURLは次のとおりであります。 <a href="http://www.sato-foods.co.jp">http://www.sato-foods.co.jp</a>
株主に対する特典	株主優待制度 毎年3月31日現在の株主に対し、当社製品を年1回、次の基準により贈呈 500株以上1,000株未満 1,000円相当の自社製品 1,000株以上 3,000円相当の自社製品

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第64期(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) 2018年6月27日東海財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2018年6月27日東海財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第65期第1四半期(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日) 2018年8月10日東海財務局長に提出。

第65期第2四半期(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日) 2018年11月9日東海財務局長に提出。

第65期第3四半期(自 2018年10月1日 至 2018年12月31日) 2019年2月8日東海財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

2018年6月28日東海財務局長に提出。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年 6月25日

佐藤食品工業株式会社  
取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	水	野	大
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松	岡	和雄

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている佐藤食品工業株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第65期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、佐藤食品工業株式会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、佐藤食品工業株式会社の2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、佐藤食品工業株式会社が2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。